

# 山岳ぐんま



一般社団法人 群馬県山岳・スポーツクライミング連盟

発行人：吉田直人 / 編集人：根井康雄

〒371-0031 前橋市下小出町 2-46-1 (小池寛喜方) tel 027-235-9247 E-mail : info@gunmaken-sangakurenmei.net



天神平から新雪の谷川岳を望む

## top News

### 年頭にあたって

一般社団法人 群馬県山岳・スポーツクライミング連盟会長 吉田直人



**新**年あけましておめでとうございます。元旦の夕刻、能登半島を震源とする大きな地震が発生し翌日には羽田空港で航空機同士の衝突事故も発

生した。波乱の幕開けとなった2024年の正月、もうこれ以上は悪いことは起きないだろう。あとは世の中全体が昇り龍のごとく勢いよくかけ登り、すべ

ての人が安穩に暮らせる一年にしたいものである。

昨年4月われわれは懸案であった団体名称の変更と法人化を同時におこない、新たな団体として歩み始めました。名称にスポーツクライミングを加えたことで群馬岳連にスポーツクライミング色が鮮明になり一般の方から見てもスポーツクライミングの競技団体はどこなのか、わかり易くなっていくと思います。本年は5年後の2029（令和11）年本県開催の第83回国民スポーツ大会（旧国民体育大会）のスポーツクライミング競技の成功に向け県と協働し徐々にその気運を高めていきたいと考えます。2月22日には、一回目の中央競技団体（JMCA）による現地視察も予定されております。5年後とはいえ群馬岳連が関わる50年に一度の大イベントがやってきます、競技委員会まかせではなく、クライミングに興味があってもなくても岳連会員として出来るかぎりの協力をお願いいたします。

次に以前にもお話しましたが一般社団法人となり責

任も付いてきました、法的に認められ信用も得たわけですから当然です。その意味では今年は試される一年になります。理事のみなさんの力を借り透明で公正な団体として健全な運営をしてまいります。

三つ目は岳連会員としてのメリットを考えていきたいと思います。例えば、山小屋やスポーツ店、クライミングジムと交渉し岳連会員限定の優待を受けられるような制度ができないか近隣の岳連にも声をかけ連携していければより間口も広がり結果的に個人会員を中心に会員増につながるはずで。高齢化が避けられないなか、一人でも多くの仲間を増やしていかないと組織が先細り、やがて消滅ということにもなりかねません。今年は岳連会員を増やしていくことも視野に入れ活動していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2024年がみなさまにとって健康で楽しみに満ち溢れたすばらしい年になりますようご祈念申し上げます。

## 2023年度 登山教室 実施報告

指導委員会 対比地 昇

### 2023（R5）年度

受講者 17人（男7 / 女10） 講師 16人

回数	実施日		参加	講師	
1	30（水）	開講式、「登山の魅力と安全登山」 角田 座学①「ナビゲーション技術1（地形図の基礎とその利用）」 根岸	16	13	
2	5（水）	座学②「ナビゲーション技術2（地形とコンパスの利用）」、GPS・スマホの利用 細野、小池	17	10	
3	9/16（土）	登山技術「赤城山」1班（見晴山・地藏岳） 森田、石橋、金子 2班（薬師岳・陣笠山） 沼居、角田、戸村、岡本 3班（長七郎山・地藏岳） 阿久津、細野、根岸、本部待機対比地	13	12	晴れ
4	9/23（土）	登山技術「赤城山」1班（長七郎山・陣笠山） 田中、細野、対比地 2班（見晴山・地藏岳） 石橋、新井 3班（薬師岳・陣笠山） 沼居、岡本	12	7	雨のち曇り
5	9/27（水）	座学③「山の天気・気象」 田中 閉講式	17	12	
皆勤者（修了証授与）			9		



**今**年度は新型コロナが5類に移行し、いろいろな制限が解除されての実施となった。しかしまだ、完全に収束した状態ではなく、インフルエンザなど他の感染症も流行っていたり、また昨年度少ない人数で丁寧な指導ができたという声もあったりして、コロナ前の定員より10人減らして30人で募集を開始した。従来なら定員を超えての申込みがあるはずであったが、予想に反して申込者は17人と低調であった。参加者の年齢構成は中高年がほとんどであるが、参加者のかなりの部分を占めていた団塊の世代が高齢化したということも影響しているのかもしれない。今後、この傾向は続くものと思われる。7月の準備会議で、講師陣については3班編制、各班2～3名で組んであり、受講生は1班あたり5～6人で実施ということになった。

今年の夏は記録的な猛暑であったが、会場の前橋市総合福祉会館

の空調設備が故障し、第1回の8月30日は過酷な状況下で座学を実施した。暑さ対策で扇風機なども持参し、準備も大変であった。座学は例年行っているナビゲーション技術①(地形図)、②(コンパス)と、久しぶりの開催になるが、③「山の天気・気象」をいれた。ここ何年か同じ講師が座学の担当をしていたが、今年度は新しい講師の方が引き受け、また難しい「山の天気・気象」も快く引き受けってくれる講師もいて、講師陣の力量を高めることができた。

実技は赤城山で4年ぶりに実施した。当日の欠席者もいて、1班あたり参加者4,5人、講師2,3人という恵まれた状況であった。実技1回目は天気晴れ、残暑の中、開会式後に全体講習ということで装備の説明をした。2人の講師がそれぞれのザックの中身を出しながら説明した。その後、いつものように3コースに分かれて読図、コンパスワークを中心に実技講習

を実施した。実技2回目は雨のち曇り、雨具を着ての出発であったが、天気も徐々に回復し、いろいろな気象条件の下で講習することができた。講師は登山経験が豊富な方が多く、経験を生かした講習をしてくれていると好評であった。けが人もなく、和気あいあいとした雰囲気で見終えることができた。

終了後の参加者アンケートの結果については、例年と同じく好意的な意見や感想を書いてくれた方がほとんどであったが、「女性の講師がいないのは違和感がある」という指摘があり、今後の課題にしていく必要があると感じた。指導員資格を持っている女性は多くないが、積極的に講師として加わっていただけるとありがたい。

数字でのまとめ 申込者17人(募集定員30人)、修了証授与者(皆勤者)9人、スノーシュー申込み者7人、岳連カレンダー協力者8人、講師16人



## ダウラギリ I 峰 南東稜の慰霊の旅 — 1

群馬県山岳・スポーツクライミング連盟顧問 八木原 啓明



カリ・ガンダキ河畔からのダウラギリ I 峰南東稜

2023 (令和 5) 年 11 月、ダウラギリ I 峰 (8167m) 慰霊の旅へ行ってきました。1978 (昭和 53) 年秋、群馬岳連隊は南

東稜に約 1 万メートルの固定ロープを張り尽くして初登攀に成功しましたが、9 月 23 日にルート工作中的の阿久沢廣、深沢勇二郎、小

林清隊員が足元から起きたと思われる雪崩により、南壁側へ転落して行方不明に。

数日間の搜索後に登山再開。10

弱電工事承ります。

電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ (LAN 及び Wi-Fi 環境)、  
TV アンテナ及びケーブル工事

パソコンで悩んでいませんか？

ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。

(難しい故障の場合は外注となります。)

### ミヤマネットワーク

代表 佐藤光由

群馬県前橋市高花台 1-6-5

電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158

月 19 日に宮崎、宇部、谷（奈良）が登頂するが、翌 20 日に小暮勝義副隊長が転落死する。私は即刻最終キャンプを後にしたが、21 日に山田、鈴木、ナワン・ヨンデンシェルパが登頂して登山を終えた。70 日間に及んだ活動を終え、第 2 次登頂隊と撤収隊が BC に帰着したのが 10 月 24 日。

その日のうちに 4 名の追悼式を行い、その晩にはシェルパ、隊員への慰労を兼ねたささやかな登頂祝いのパーティーも催し、翌 25 日には BC 撤収。長期にわたる高所での活動で疲弊しきった全員の身体をおもんばかり、一刻も早く高度を下げ、心身ともに癒やそうとのドクターの意見もあり、やっと戻って来たベースキャンプでゆっくりすることも出来ない、超早期 BC 撤収でありました。

それから 45 年、ネパールへは 50 回も行っているのに、BC 横の大岩に書き残した慰霊の碑を訪れていない。4 人への申し訳なさはのどに刺さった小骨のように何時になっても取れなかった。



ポカラの国際山岳博物館で

1987（昭和 62）年 12 月のアンナプルナ 1 峰（8091m）冬期南壁初登攀後の小林俊之、斎藤安平の碑も訪問できていなかったが、2022（令和 4）年暮れの電話で、NHKBS のトランス・ヒマラヤ・トレイルの撮影でアンナプルナ内院へ行って来た貫田宗男さんが「2 人の碑が立つサイドモレーンが削られ、碑が崩れそうになっている」と知らせてくれました。

ならば、この際かねがね気になっていたダウラギリ I 峰南東稜の碑とアンナプルナ BC を訪問しようか、とも思うが谷川岳山岳資料館の開館もあり、時間もなければ金もない。アンナプルナは佐藤光由夫妻他の皆さんが行ってくれるという。これで私自身は秋への覚悟が固まり、11 月に日本山岳会群馬支部設立 10 周年記念事業とくっつけて行くこととした。



株式会社エーアールアイ  
東京都練馬区上石神井 3-18-1  
TEL 03-5991-4638

# 頑健な男だった はずが・・・

八木原罔明

あんなに元気さを、強さを誇っていたと思っていた松永が逝ってしまうとは・・・・・・。歳を経るごとに昔ながらの交友が減るのは仕方ないと承知していた。それでも私にとってもあまりに急な訃報だった。

半世紀も前、我々が若さに任せて登っていた頃、群馬県中に、否日本中に腕自慢、足自慢、力自慢が溢れかえっていた。そんな中の一人が松永だった。1969（昭和44）年秋に群馬岳連に遭難救助隊が出来た。県内の腕自慢クライマーが集まって来た。

そして遅まき群馬にもヒマラヤの芽が吹き、ダウラギリIV峰にダウラギリI峰に向かった。8,000メートルの勇者山田昇が出現し、沼田の先輩松永も我慢できずに表に出てきた。体力でも、仕事でも、山でも仲間には負けない、負けたくない松永だった。

1984（昭和59）～5年冬のアンナプルナI峰（8091m）南壁の準備の頃は沼田から自転車で前橋の集会に通ってトレーニングとした。松永のあの頑張り是我々の誇りだった。

渡辺齊さん達が荷上げを手伝ってくれ、星野光総隊長が雅子夫人を伴ってBC再訪したあの登山の時だった。山田の長兄、豊さん、富岡芳山、東京芳山の近藤和美さん達やたくさんの外国人トレkkerも来てくれた。

「アンナプルナりんご園」の松永自慢のリンゴは江戸時代創業、高級果物店のあの「千疋屋」に納める品質

を誇り、県の農産物品評会ではしょっちゅう最優秀賞を獲得していたらしい。その度々の受賞実績が無くては「皇室への献上」もなかった。「アンナプルナ」とはサンスクリット語（古代梵語）で「豊穰、豊作の女神」と言う意味である。さもありません。

エベレスト冬期南西壁を終え、1994（平成6）年6月の岳連総会で私は田中成幸さんの後を

継ぎ、理事長を受けたが松永の指導力、人柄を買って副理事長に就任して貰う。

お母さんが亡くなった時、献体の事を聞いた。「献体」希望を遺言しておられた。お葬式もしばらく出来なかった。あの母がいて松永がいた。



山田りんご園創立50周年祝賀会を終えて。  
左から梅沢浩二、八木原、松永幸雄



## 松永との六十年

小野正純

松永との出会いは、1963（昭和38）年に入学した沼高の1年2組の教室でした。私は白沢中出身で、彼は利南中でしたが、同じ自転車通学組で、彼の家が私の通学路の途中にあり、良く学校帰りに寄らせてもらいました。

夏休みになると、私が中学の時に行ったことのある尾瀬に行くことになりました。当時は沼田駅からバスが深

夜に何十台も出ていて、私たちも中町の友人の家に集まって向かいました。風間テントで大きなキャンバス地のテントを借り、見晴の十字路でテントを張る予定が、ポールの係が持っていくのを忘れ、なけなしの金を集めて小屋泊となりましたが、ポールの係が松永だったかどうか定かではありません…。これが松永との最初の山行で、この年は谷川岳にも行っています。西黒尾根から登り、天神尾根を下山していますが、尾瀬ほどの記憶はありません。

その後、二人とも目指した大学に行けず、高校卒業から五年たった1971年に再会し、二人とも家業の農業に従事し始めた頃、先に入会していた松永から沼田山岳会に誘われ入会しました。二人そろっての最初の山行は五月の馬蹄形縦走でした。清水峠でのテント泊の時、ホエーブス（石油コンロ）の取り扱いになれていなくて石油臭い夕食になったのと、体力のなさに気づかされました。その後冬の谷川から北アルプスにも足をのぼし、精力的に山行を繰り返し、やがて海外にも目を向けるようにな



左から松永、小野、山田昇、山田豊 アンナプルナBCにて

りました。

最初の海外登山は1982年のカモシカ同人隊のダウラギリI峰北西稜ペアルートで、隊員三人は登頂出来ましたが、彼はサミッターにはなれませんでした。リベンジの覚悟で参加したのが1984年のアンナプルナI峰の冬季南壁でした。私と星野会長夫妻、山田豊さんたちがベースキャンプを訪問した

二三日後に撤退となり、夢はかないませんでした。

その後、彼は一九八五年ころからリング作りに専念し、日本で一番うまいリングを作ると言って、常に研究し、人のやらない人工摘果や、山形の先駆者を訪ねるなどしてまで、本当にうまいリングを作るようになりました。屋号のアンナプルナ（豊穰の女神）は1984年遠征時の山名から名付けたものです。

趣味人でもあり、カメラ、車、そば打ちなど挙げていけばきりがありませんが、最近ではゴルフに凝っていて、エージシュートを狙うため庭にグリーンを作ると言って、私が材料を用意したのが、今年（2023年）の9月。亡くなる一日前には芝の芽が出て、良く発芽したこと、そして三年前に植えたフジバカマにアサギマダラが初めて飛来したから見に来るようになど、電話で話したのが最後になってしまいました。

もっともっと、二人で酒を飲み語り続けたかった。本当に残念でたまりません。松永、六十年ありがとうございました。

合掌

# 群馬の山

# 12

## 吾妻山 吾妻公園から村松沢を下るコース

吾妻山は桐生市街地のすぐ北に位置し、多くの市民に親しまれている。鳴神山から南へ続く稜線が自然観察の森、桐生が岡公園へ至る山並みを分岐し、吾妻山からは小倉峠へ続く主脈から分岐して、さらに水道山と光明寺裏手の尾根に分かれる地形上にある。トンビ岩、頂上からの街並みや遠く関東平野の眺めが桐生を感じさせる。頂上までは子どもからお年寄りまで登れるとはいえ、途中岩場があるので注意したい。第一、第二の男坂女坂、頂上稜線直下、いずれも巻いて行けるので無理をせず上り下りしよう。川内側の登路も整備されているの



吾妻山

でバスをうまく利用すれば静かな山を楽しめる。初級者向きだが途中の岩場、村松沢の通過を考えるとしっかりした足ぶしえと基本の登山装備はそろえたい。

難易度A 体力度1

吾妻公園→〈0:25〉トンビ岩→〈0:30〉吾妻

山頂上→〈0:30〉村松峠→〈0:25〉

村松峠登山口→〈0:20〉吾妻公園

### 「群馬の山歩きベストガイド

安心して歩ける 126 コース」

群馬の山歩き  
ベストガイド

安心して歩ける126コース



定価 1400 円 + 税

ISBN978-4-86352-249-7

群馬県山岳連盟と日本山岳会群馬支部、群馬県勤労者山岳連盟による群馬県山岳団体連絡協議会の編集で、上毛新聞社から発売中。お求めは岳連総務委員会へ。県内外の書店でも好評販売中。

後編  
記集

能 登の大地震で始まった 2024 年辰年。龍の恐ろしさを見つけた年初だった。冒頭の会長あいさつの通り、これからは穏やかな日々が続くことを願いたい。一方、気象も昨冬から引き続いての「異常」な温暖化傾向。赤城山も全くの小雪。12月中旬の西黒尾根にも、下旬の白毛門ラッセル訓練にも雪がない。水に潜み、大空を飛び、雨を降らすという龍。知恵や経験のスケールをはるかに超えた自然の奥に潜む巨大な力。それを人は「龍」に象徴化したのだろうか。



# (有) 山とスキーの店 石井

## DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2

TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026